

# 委託事業実施内容報告書

## 平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【日本語指導者養成】

受託団体名 インターカルト日本語学校

#### 1 事業の趣旨・目的

地域での「生活者としての外国人」を支援するために地域—学校—家庭—行政のつながりを基に指導できる人材養成のための日本語の専門知識や実践的な技術を学ぶ講座を開催する。外国につながる子どもたちが「生活者」として日本社会で生きていくための支援には、子どもたちが今置かれている現状をきちんと把握し、豊かな日本語指導力を身につけることが必要である。また、地域での学校—家庭—行政の子どもたちを支えるネットワークづくりも大きな課題となる。

年少者指導の各分野や現場で活躍されている方たちを講師陣として、日本語を指導するうえで大切な専門的知識や地域で積み上げたノウハウ等を実践的にワークショップなどを通じて学ぶ。そして、広い視点から、地域で子どもたちを支える道をどう創っていくかを受講生同士で考える場とする。

#### 2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月16日	多文化共生センター	王 穂坂 谷口	23年度「日本語指導養成講座」をどう実現するか 2回の実績に踏まえ、より実践的なものにするためにどう特色づけるか—前回の反省にふまえ テーマ、内容、人選、募集対象、募集方法など	募集の範囲をどうするか。 講師の人選について 実践的な内容を考える。 現場の見学をどうするか。
9月18日	多文化共生センター	王 穂坂	終了後の人材活用 ネットワーク作り	講座修了後の人材の活用について

		谷口	連携機関との調整	ネットワーク作りを具体的に どうしていくか。
--	--	----	----------	---------------------------

【写真】



### 3 養成講座の内容について

- (1) 講座名： 日本語指導者養成講座  
がんばれ！子供たちチャイルドチェーン・地域からの発信
- (2) 目標： 地域で日本語教育の場が極めて少ない外国人の子どもたちに実践的に指導できる人材の養成
- (3) 受講者の総数 34 人  
(出身・国籍別内訳 日本 33人 中国 1人)
- (4) 開催時間数(回数) 28.5 時間 ( 9 回)
- (5) 参加対象者の要件  
地域の年少者指導員、教員退職者、現教員、民間企業退職者、年少者指導に興味のある方
- (6) 受講者の募集方法  
地域の小学校・中学校教師への案内文郵送、区の行政機関、教育委員会への案内と依頼、今までの受講者への案内、日本語学校HPへの掲載
- (7) 会場 インターカルト日本語学校教室
- (8) 使用した教材・リソース  
各講師が講座に必要なレジュメ・教材を準備  
また、講師が制作したオリジナル教材をCD使用。  
講座での使用教材参考例 「にほんご大好き」「かんじ大好き」  
「自家製にほんごカード」

## (9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
10月1日 13:00～ 16:00	子どもが二つのことばに 出会うとき	西原鈴子 元東京女子大学教授 文部科学省文化審議会会 長	27人
10月8日 13:00～ 16:00	言語的・文化的多様性を 生きる子ども達の発達と 学習の課題	石黒広昭 立教大学 教授	28人
10月15日 13:00～ 16:00	教え方実践編 ワークショップ 「日本語国際学級の子ど もたちの今と未来 — 子どもたちの自尊感情 の形成のために —」	善元 幸夫 琉球大学・立教大学講師・ 日韓合同授業研究会代表 元大久保小教員	28人
10月22日 13:00～ 16:00	教え方実践編 ワークショップ 学校の勉強についていけ る日本語の底力をつける ために —漢字学習を中 心に—	関口 明子 公益社団法人国際日本語 普及協会 地域日本語教育担当理事	28人
10月29日 13:00～ 16:00	おしゃべりから/とりテラ シーへ —ダーリンくも >外国人の時代を迎え —	春原 憲一郎 財団法人海外技術者 研修協会理事兼 AOTS 日本語教育センター 長 日本語教育学会常任理事	29人
11月12日 13:00～ 15:00  15:00～ 17:00	地域での子どもサポート 中国人児童への支援活 動 — 外国人の視点か ら—  1日も早く授業に参加し たい子どもたちを応援す る教材作り	陳 麗恵 三鷹「巣立ち教室」指導員  野崎 斐子 武蔵野市国際交流協会日 本語交流員 YWCA武蔵野センター支援 員	29人

11月19日 13:00～ 16:00	日本語教師から見た子どもと家庭の支援 —可能性と限界—	教授者 杉並児童相談所 児童福祉司	27人
11月26日 13:00～ 16:00	地域での子どもサポートと組織作り 講座を修了して —交流—	小林 普子 NPO法人みんなのおうち 理事	27人
12月3日 13:00～ 16:00	実地見学 — 多文化共生センター東京	王 慧槿 多文化共生センター東京 代表	25人

## 10) 講座の評価

### ①受講生に対するアンケート

毎回個別に感想や今後の希望などのアンケートを配布・回収した。

回収率100%、次回に丁寧に記入し提出する例もあった。

最終回に全体を通しての感想・意見、今後の課題についてアンケートを実施

満足度 (満足 やや満足 普通 やや不満足 不満足)回数ごと、5段階で集計

回収 25件

全体の講座から 満足 83% やや満足12% 普通4% やや不満足0%

不満足1%

受講者は20代学生から70代まで、ボランティア経験者、小学校、中学校 高校、大学の現役教師・退職教師、日本語学校教師、塾講師、児童館職員、地域の日本語教室参加者、今後の日本語指導希望者と幅広かった。

<例>

- ・どの回も興味深い内容でとても勉強になった。今後役立てたい
- ・日本で生活する子どもたちの現状をよく知ることができた。まず知ることが大事。  
日本語を超えて大切なことを学んだ。 (20代学生)
- ・今まで視座に入らなかったことが今回の講座で見えてきた。  
移民の方々の言葉にならない苦労や悲しみなど (60代・大学講師)
- ・適切な内容と教材を知って有効だった。教える難しさも知った。
- ・充実した講師陣の話に毎回あっという間に時間が過ぎた。教育委員会や学芸大の研修とはまた違う多様なレベルの高い講師陣と多様な立場で参加している。参加者と勉強を深められ、スタッフの方にも感謝する。次回もぜひぜひ参加したい。他の教員にも伝えたい。  
(30代小学校教師)

- ・さまざまな講座内容に自分自身を振り返り考えた、仕事にも活用していきたい。  
志を共にする仲間からの質問も多く飛び交い貴重な場だった。（40代教師）
- ・毎回すばらしい講座だった。1回だけではもったいなく20回コースを希望。
- ・子どもを取り巻く環境が根の深い問題だと分かった。言葉は重要な手段。もっと多くの人にこのような子どもたちの状況を知ってほしい。
- ・すべての講座の人選がすばらしく中身の濃い勉強ができた。ボランティア教室で活かしていきたい。（70代、ボランティア）
- ・時間が足りないくらい講師のほとばしる情熱に圧倒された。毎回の講座が面白く楽しみであつという間だった。今までの講座の中で一番良かったです。感謝！
- ・まったく今まで学んだことがない内容で新鮮でした。今後は国際関係のこともまなびたい。（40代 児童館勤務）
- ・ここで学んだことを活かします。「ここは違う」と外国の子どもたちに思われるような共に豊かになれるコミュニティ作りです。
- ・前半は研究や専門分野、後半は現場の方たちでバランスよく多岐にわたり、よかった。ただ、受講者は実際に子どもと接して日々悩み、相談したい人が多いのでは？相談しあう日があっても良かった。（40代日本語教師）
- ・具体的話が主でとても参考になった現状の問題点や解決策の提示など今後活かしたい。主婦、ビジネスマン、義務教育など状況別の日本語指導の実際と指導法について実施してほしい。（50代国際学級教師）
- ・熱気にあふれた講座だった。講師・参加者とも。問題意識が共有されていると集中度が上がる。質疑応答の時間がもっと取れれば。それだけ充実しているということ。すばらしい講座ありがとうございました。（60代 主婦）
- ・塾で外国人の生徒を教えているため参加。すばらしい企画力に脱帽。またぜひ参加したいです。（40代塾講師）
- ・講師陣の豪華さに驚きました。同じことに悩んでいる方と出会え、意見交換でき嬉しかった。まず自分が何をするか広がった。（20代 日本語教師）
- ・このような時間がもっと度々あればと思った。さっそく行動したい。
- ・日本の国がもっと外国について考えていくためにどうすべきか、子どもたちにどう日本語指導をしていくか、考えました。（20代 学生）
- ・台東区も多国籍・多文化の豊かな地域。本来の人間教育・共育を祈ります。嘆くことなく夢見ます。バタフライ効果が来ると予感できた講座でした。ぜひこれからも続けて下さい。ぜひ。「井戸端ネット」いいですね。

## ②実施主体からの研修内容結果評価

受講者のアンケート結果からも計れるように、地域で日本語を指導するうえで必要な日本語の専門的知識とワークショップなどを通じた実践的な技術の習得がバランス良く充実した内

容で実施できたと実感している。最終回に実地研修として実際に指導している現場に赴き、受講者が体験できたことも貴重な機会だったと思う。また、欠席者がほとんどなく毎回のアンケートにも充実した内容に感銘をうけたという言葉が多かった。主催者側がアンケート内容を読んで恐縮するものも多かった。講師と受講者が一体になった熱い講座の連続だったと自負している。参加者も広い地域から様々な職種、年齢層、実践場面の異なる方が多く、地域間での交流という意味でも大きな役割を果たした場であった。最終回には今後も続けてほしいという要望も強く、「ネットワーク」を作った。持ち回りで講座を続けようという声も上がり、講師の方の中には無料で「出前講座」やりましょうかという声もでた。同じ地域で何か行動しようと、自主的にアドレス交換する姿もあった。その媒介・拠点を創ってほしいという声も上がった。こういう場がいかに必要かということであり、希求しているということであり、まさにその環境を創った講座であったと思う。またこのような場作りを可能にした。このような委託事業があったからであり、3回目の講座と言う蓄積があったからだと考えている。

### ③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

地域での情報交換、実施する拠点作りを目指し具体的にニーズを把握したうえで行動していきたい。幸いにも地域の日本語学校という恵まれた場を活用し、人材の育成、活用、情報交換、相談できる場の創造。

#### (11) 事業の成果

##### 1 他事業との連携

文化庁委託の「日本語指導者養成講座」も3回目を重ねることになった。このかん、地域で培ってきた教育委員会や地元の小学校やボランティア団体との連携をいっそう深め、外国人の子どもたちにとって学びやすく暮らしやすい環境を創っていきたい。また、講座などの関係で連携をつくり、人材派遣などを協力して行っている「多文化共生センター東京」との関係も連絡を密にし、地域に貢献していきたい。今回も地元地域以外にも広い地域で活動している方たちの参加も幅広くあった。当該地域のボランティア団体や小学校、教育委員会などとの連絡も取れることを目指し、ネットワーク作りを目指したい。インターカルト日本語学校では日本語指導者養成講座以外にボランティア向けの講座も同時に行った。その受講者やスタッフとも連携をはかり、充実した拠点作りを目指したい。

##### 2.研修後の人材活用

今回、講座は3回目を迎えるが、1、2回の講座終了後、受講者を中心にしてメーリングリスト「井戸端ネット」などを利用して情報交換などを図ってきた。また、土曜日に日本語学校の場を活用し地域の外国籍の子どもたちに教科指導を実施した時の指導者として人材活用を図った。また多文化共生センター東京との連携で、都立の高校への人材派遣、共生センターでの日本語教師やボランティアとしての指導担当への就任などを進めてきた。今回も引き続き

「井戸端ネット」などを活用し、地元地域での日本語指導者育成を目指したい。そのためには、拠点となる場作りが必要で講座終了後も何らかの形で継続的に自前講座も含め、学び・行動できる場ができないか具体的に検討中である。

#### (12) 今後の課題

幸いにも3年連続し、日本語指導者養成講座の委託事業を実施できている。回を追うごとにより深く、実践的内容を中心とした充実した講座内容になっていると自負している。今回は参加者は教師経験者や日本語教師や地域ですでに実践している方が多く、参加者はほとんど欠席もなく、活発な質問や意見も多く出て、文字通り、講師・参加者・スタッフが一体となった熱い講座であったと思う。最後の交流会や現場の見学会の後では「終わりにしたくない」「今後継続的に何かできないか」「またぜひ企画してほしい」という声があがり、地元地域の方同士、自主的に連絡先交換が始まり、インターカルト校にそのコーディネートをしてほしいという声も出た程だった。また、講師からも無料で「出前講座」をやってもいいから継続しようという案もあった。主催者としては嬉しい限りである。しかし、それだけこのような学び、情報交換し、同じ目標を持つ者同士の相談、実践する場がないということであり、それぞれの場で実践している、しようとしている方たちにとり、こういう場が希求されているということを改めて実感した。アンケートに書かれた今後の希望などをじっくり分析し、従来の「井戸端ネット」を再度新たに立ちあげ、情報交換を図るとともに、インターカルト校という場も人材も教材もそろった地域の日本語学校を活用し、初めに掲げた目標の地域—学校—家庭をつなぐチャイルドチエーンとしての拠点作りをしたいと考えている。また、今回の講座で感じたことは知識、理論も大切だが、参加者同士の交流が貴重だったという声も多く時間も足りない位だった。現場の国際学級を担当している教師さえ、孤立を余儀なくされるという悩みも聞いた。熱心な方達ほどそのような現実には直面している。現在の日本語教育の実態、指導者不足を考えると問題の大きさにたじろぐが、委託講座を企画、実行した主催者側の責任として、目的遂行のために今回の講座を糧とし次の実践的課題に情熱を持って取り組みたい。